

2024年2月期

決算説明会資料



2024年4月16日

株式会社 アークス 代表取締役社長 横山 清

2024年2月期 通期決算について

1. 2024年2月期 連結実績
2. 営業利益の増減要因
3. 2025年2月期 業績予想
4. 株主還元について
5. 資本コストや株価を意識した経営について

株式会社アークス
取締役副社長執行役員 古川 公一

1. 2024年2月期 連結実績

人件費の上昇等により販管費は増加したものの、既存店の好調や物価高による単価上昇により、売上高・売上総利益が伸長。増収・2桁増益での着地となりました。

(億円)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通期実績
売上高	1,429	1,493	1,442	1,551	5,915
前年比	103.3%	104.4%	104.9%	105.2%	104.5%
予算比	99.9%	101.5%	102.8%	102.3%	101.6%
売上総利益	361	371	359	401	1,494
前年比	104.9%	105.9%	104.1%	106.4%	105.4%
予算比	99.8%	100.5%	101.9%	102.4%	101.2%
販管費	321	332	327	344	1,325
前年比	105.1%	105.4%	103.5%	103.8%	104.4%
予算比	98.5%	99.6%	100.2%	100.8%	99.8%
営業利益	39	39	31	57	168
前年比	103.5%	110.9%	110.1%	125.9%	113.5%
予算比	111.9%	108.6%	124.8%	113.2%	113.7%
経常利益	44	43	35	60	184
前年比	105.8%	107.8%	107.8%	124.0%	112.1%
予算比	117.3%	108.9%	118.1%	112.7%	113.8%
当期純利益	30	27	21	38	117
前年比	104.7%	105.4%	93.9%	176.9%	118.3%
予算比	117.5%	105.7%	114.4%	132.7%	118.3%

売上高：物価高・節約志向の環境下、既存店客数(前年比+1.2%)と客単価も前年より伸長(同+3.1%)、売上高は過去最高額を記録

売上総利益：好調な売上高に加え、総利益率改善(+0.3pt)により、総利益高は前年比で+5.4%。予算比は、総利益率が予算を下回った(▲0.1pt)ものの、売上高の予算達成により+1.2%で着地

販管費：前年比は人件費増を中心に販管費額は4.4%の増加となったが、予算比では電力単価の低下もあり、電気料金(予算差▲24.5億円)が想定を下回り、販管費全体では予算内執行(▲0.2%)
※詳細は次ページご参照

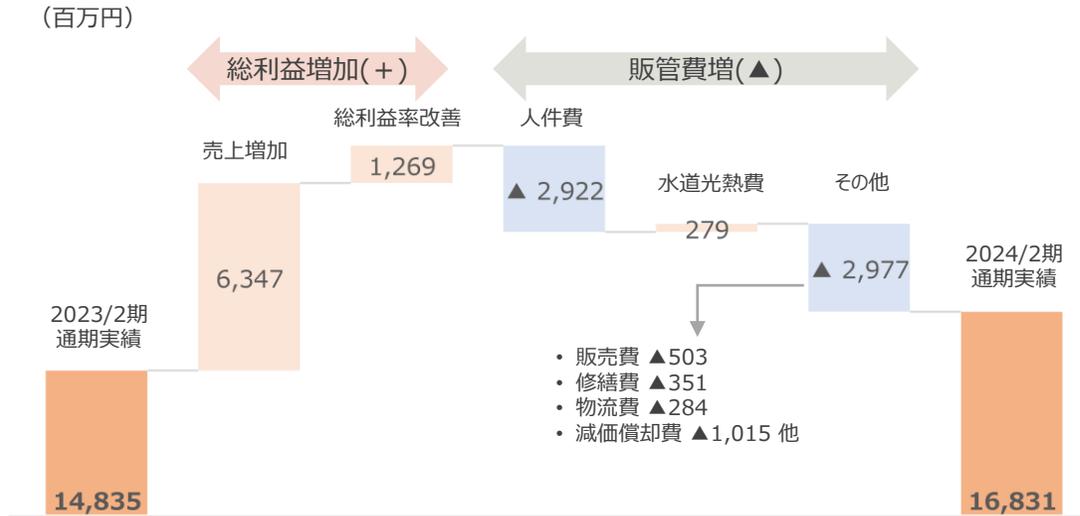
営業利益・経常利益：上記の結果、営業利益・経常利益ともに前年・予算を上回り、対前年では2桁増益、対予算でも2桁増を達成。2021年2月期に次いで、2番目に高い水準で着地
※詳細は次ページご参照

当期純利益：賃上げ促進税制により法人税が減額。当期純利益は前年比118.3%となり、各段階利益を超える対前年増益率を達成

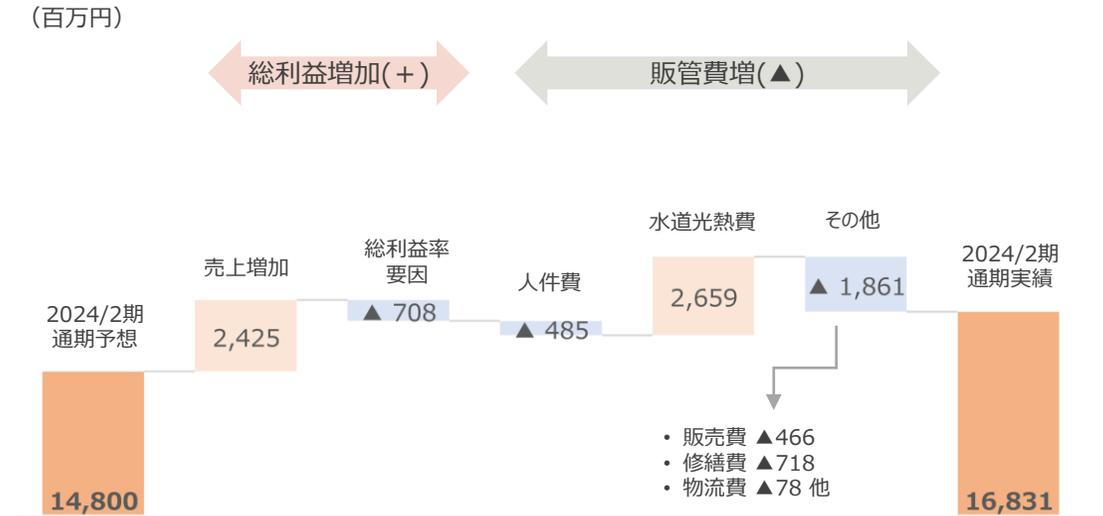
2. 営業利益の増減要因

売上高が堅調に推移し、総利益も順伸。販管費は人件費が増加したものの、予算内執行。結果、営業利益は前年比・予算比ともに約20億円上振れて着地しました。

■ 前年との比較



■ 予算との比較



売上総利益

- 売上高は前年比104.5%の+253億円の増収、総利益率も+0.3ptと上昇
- 結果、総利益高は+76億円の増加

- 売上高は予算比101.6%の+95億円と予算を上回るも、総利益率は▲0.1pt
- 結果、総利益高は+17億円の増加

販管費

- 人件費：定昇・ベアのほか、最低賃金の引き上げや業績好調に伴う賞与支給額の増加等により前年から+29億円の増加
- 水道光熱費：節電施策や年度後半の電力単価の低下もあり▲2.7億円
- その他：販売費や修繕費等が増加し+29億円
- 販管費計では前年比104.4%、56億円の増加
⇒結果、営業利益は前年から約20億円のプラス

- 人件費：賃上げによる増加分を見込んでいたこともあり、賞与支給額の増加等もあったものの、ほぼ予算線上の+4.8億円の増加に留まった
- 水道光熱費：電力単価が想定を大きく下回り、▲26億円と下振れ
- その他：LED照明の前倒し切替等による修繕費+7億円を始め、+18億円超過
- 販管費計では予算比99.8%、▲3億円の予算内執行
⇒結果、営業利益は予算比で約20億円のプラス

3. 2025年2月期 業績予想

(億円)	2024年2月期 通期実績	2025年2月期 業績予想
売上高	5,915	6,130
前年比	104.5%	103.6%
売上総利益	1,494	1,553
前年比	105.4%	103.9%
販管費	1,325	1,380
前年比	104.4%	104.1%
営業利益	168	173
前年比	113.5%	102.8%
経常利益	184	188
前年比	112.1%	102.0%
当期純利益	117	116
前年比	118.3%	98.6%

2025年2月期の取り組みについて

売上高

(+215億円)

- (株)みずかみの売上高の通年寄与
- CGC商品並びに新日本SM同盟商品の拡販
- 26店舗の改装実施
- ネットスーパー事業の拡大
- アークスアプリ刷新による販促強化
- 価格政策：「生活防衛価」「家計応援」等
- 競合店対策の徹底

売上総利益

(+59億円)

- 売上高増加（前年比+103.6%）により総利益増加（総利益率は前年+0.07ptと前年並み）
- カテゴリーマネジメントによる商品構成の見直し、商品及び資材の共同調達強化

販管費

(+55億円)

- 人件費786億円（前年差+28億円）、電気料金115億円（同+14億円）
- 店舗運営情報共有会や新日本SM同盟による店舗オペレーションの効率化
- RPAの活用等による生産性向上

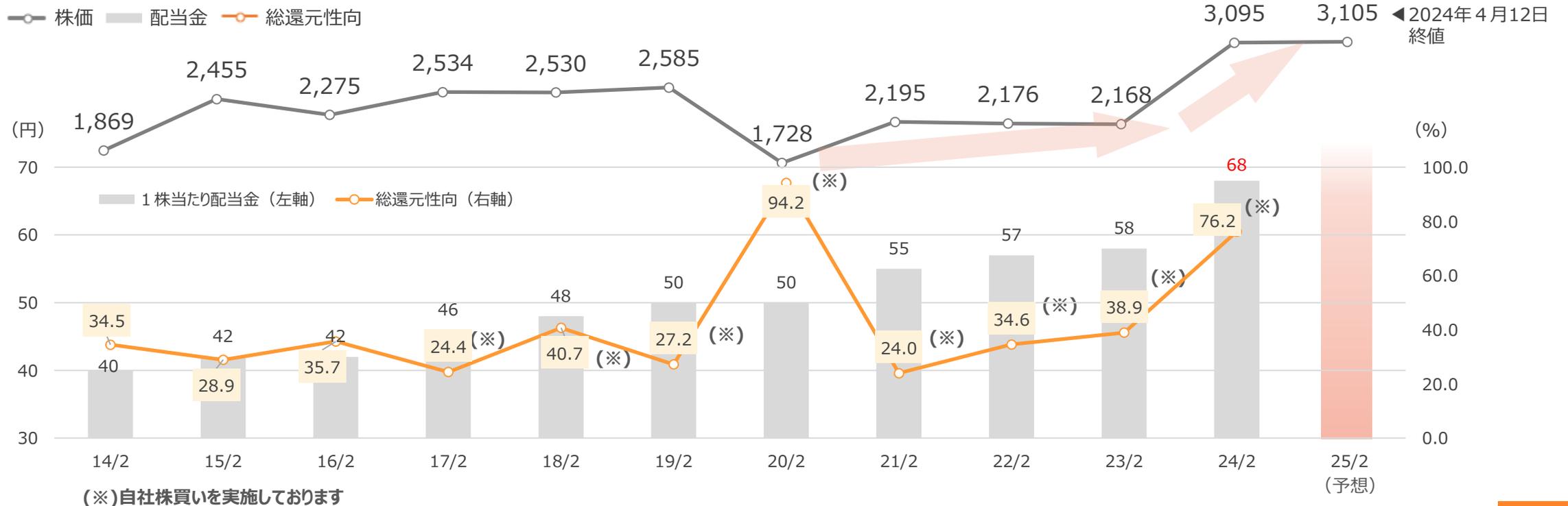
- **営業利益 173億円（前年比102.8%、前年差+4.7億円）**
- **経常利益 188億円（前年比102.0%、前年差+3.6億円）**
- **当期純利益 116億円（前年比98.6%、前年差▲1.6億円）**

4. 株主還元について

利益還元策について、以下の取り組みを実施しております。

- 2023年4月から12月にかけて、200万株・52.3億円の自己株式取得を実施いたしました。
- 2024年2月に一株当たり配当金8円の増配、今回更に2円の増配を決議いたしました。これにより前年から10円の増配となり、一株当たり年間配当金は68円となる予定です。
- 2024年4月12日の株価(終値)は前年同日比+825円(+36.2%)の3,105円となっております。

■ 株価・配当金・総還元性向(※)の推移 (※)総還元性向 = (支払配当総額+自社株取得) ÷ 当期純利益 × 100

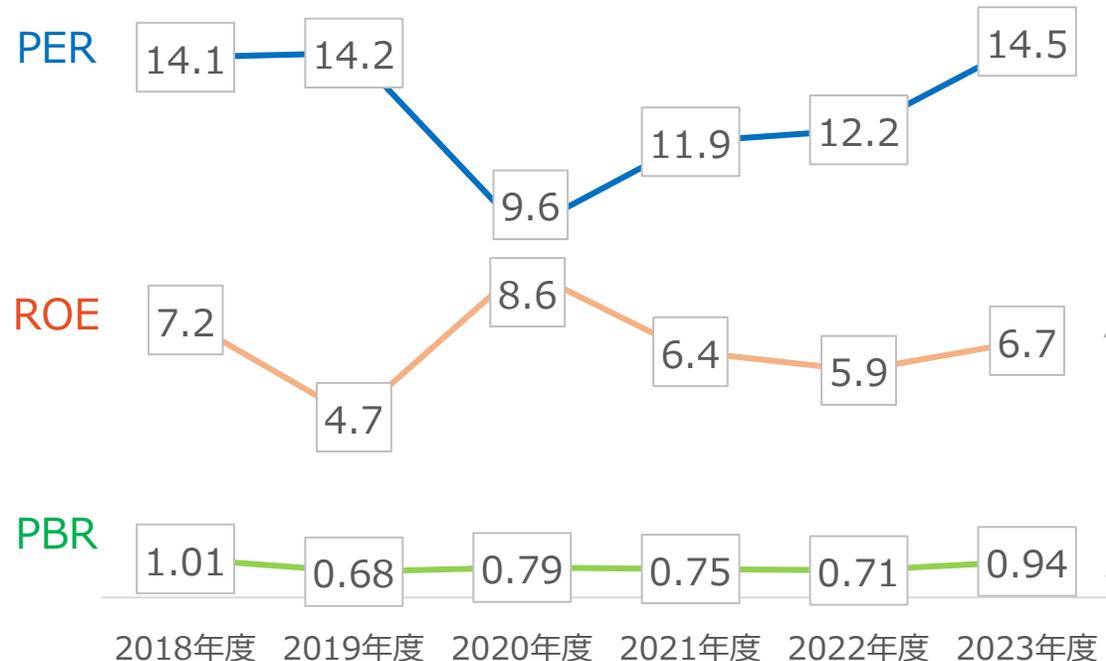


5. 資本コストや株価を意識した経営について

資本コストや株価を意識した経営に向けて、以下の取り組みを実施しております。

- 2024年2月期のROEは6.7%となり、算出される当社の株主資本コスト約3.5%~5%*を超えて推移しています。一方で、PBRについては1倍に向けて上昇してきましたが、現状は僅かに1倍を下回る水準となっております。 * 証券会社数社がCAPMの手法により算出した数値を参照しております。
- 成長投資(特にM&A)による利益水準の向上を第一義に、バランスシートの効率性を追求することで、ROE8.0%以上の実現を目指してまいります。

■ ROE/PER/PBRの推移



* 2023年度の各指標は、当期純利益・純資産：2024年2月期、株価：4月12日終値で算出

プライム上場企業の平均PER (18.3倍：2024年3月末時点) を下回っており、成長投資、株主還元(増配、自己株式取得等)、IR/SRの強化等を通じて、株価の更なる向上を図ります

2023年度ROE6.7%の要素分解

当期純利益率	総資産回転率	財務レバレッジ
2.0%	2.2回	1.5倍
営業/経常増益により段階的な向上を図る	手元キャッシュの成長投資への配分	金利上昇局面に対する耐性

- 新規出店・改装、物流体制の再構築、DXの推進、M&Aといった、グループ全体の事業利益の追求及び統合メリットの創出に資する投資を強化し、利益水準の向上に努めます。

ROEの向上と利益成長に伴う株価の向上を通じ、持続的に1倍を超える水準を目指してまいります

アークスグループの 取り組み

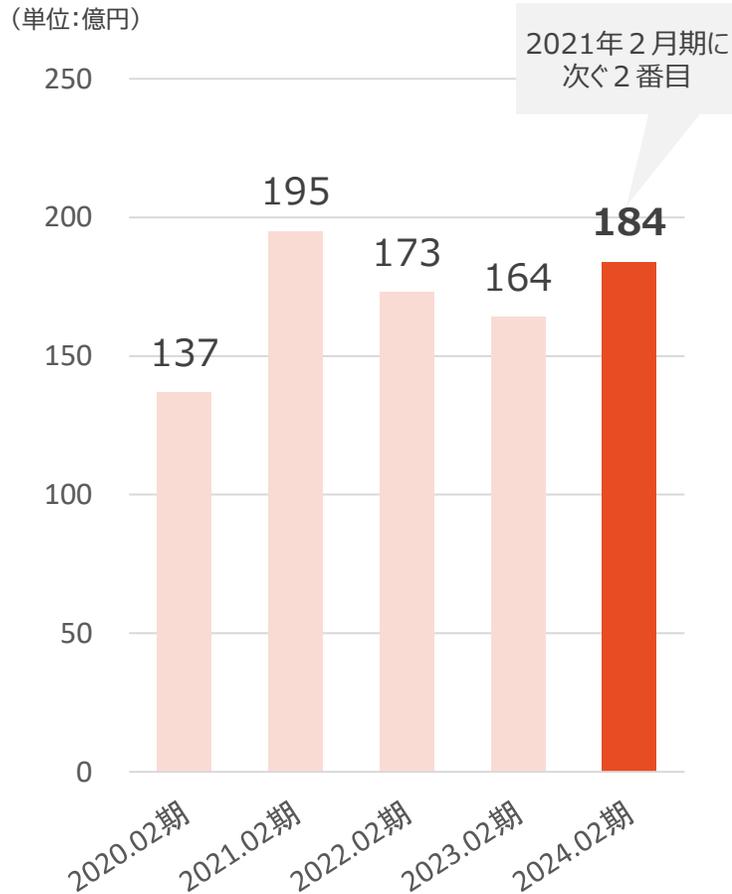
1. 2024年2月期トピックス
2. 勝負の3年～競合は成長の糧(かて)
3. 「価値変容・新価格体系」から「納得価格」へ
【ご参考】2024年2月期 店舗展開について

株式会社アークス
代表取締役社長 横山 清

1. 2024年2月期トピックス

各種取り組みにより、増収増益で着地。コロナ禍により押し上げられた2021年2月期に次ぐ、2番目に高い経常利益を確保した。

■ 経常利益推移



ネットスーパー事業の強化

- 2023年12月に「Amazonネットスーパー アークス」をスタート
- (株)ラルズに続いて、2023年6月より(株)ベルジョイスが「アークスオンラインショップ」をスタート



▲ 2023年10月3日 Amazonとの合同記者会見



▲ アークスオンラインショップ

物流改革／2024年問題対応

ゆとり配送の実施による物流改革、物流2024年問題への対応



▲ ラルズ物流センター



▲ ラルズ・東光生鮮流通センター

(株)みずかみと経営統合

2023年9月に(株)ベルジョイスと(株)みずかみが経営統合を実施



▲ アクティマーケットプレイス遠野店

サステナビリティ対応



▲ 「使用済コルク栓」を再利用したコルク製品 (ラルズ)

2. 勝負の3年～競合は成長の糧(かて)

今後3年間でスーパーマーケットの再編は加速し、業界の勢力図が大きく動いていく。

■直近の業界動向

アークスグループの展開地域でもある北海道・東北を中心に、連続して大きな動きが出ている

年月	出来事
2024年 2月	イトーヨーカ堂 が北海道・東北・信越地方の店舗閉鎖を発表。 譲渡先は、北海道は ロピア・ダイイチ 、東北では ロピア・ヨークベニマル
	ツルハHD が ウエルシアHD との経営統合並びに イオングループ 入りを公表
2024年 3月	オアシス・マネジメント による アインHD の株式大量保有報道（株式比率9.6%）
2024年 4月	西友 が北海道と九州からの撤退を発表。 北海道の9店舗は イオン北海道 へ、九州の69店舗を イズミ へそれぞれ譲渡

トップ在任期間39年

アークス取締役 3 C体制

- 代表取締役会長・CEO
- 取締役副会長・CFO
- 代表取締役社長・COO

売上高 1 兆円構想

業界再編の主役に

CGC連携の深掘り

3社同盟の深化

3. 「価値変容・新価格体系」から「納得価格」へ

2023年度はコロナ禍による「価値変容」や物価高に対応し、新価格体系への移行を推進。2024年度は更に取り組みを進化させ、お客様に「良い品」を「納得価格」で提供する体制構築を図る。

変化したお客様の要望に
価値変容の時
 納得できない値上げは許さず
インフレに挑戦
 新しい価値を果敢的に整え
新価格体系の
 一刻も早く実現して心ゆくまで
移行で幸福な
 日々の暮らしをつくりだそう
生活を創出す。
 令和五年元旦
 社長 横山清

▲2023(令和5)年 年頭所感



顧客の為の競合は成長の根源
競合は成長の糧
 グループの力を更に強化して
協業の力を高め
 価値ある商品・サービスを
良い品を納得の
 納得できる価格でお届けする
価格で提供する
 のが私達の使命であります。
使命を果たす。
 令和六年元旦
 社長 横山清

▲2024(令和6)年 年頭所感

顧客の為の競合は成長の根源
 グループの力を更に強化して
 価値ある商品・サービスを
 納得できる価格でお届けするのが
 私達の使命であります。



▲(株)シジシージャパンとの連携強化



▲新日本スーパーマーケット同盟限定
 オリジナル商品 (ご当地カップ麺)



▲銘菓の域外販売によるグループシナジー
 強化



▲鏡餅の販売好事例横展開

【ご参考】2024年2月期 店舗展開について

店舗改装を中心に、新規出店も進め、よりお客様のニーズに沿うように店舗のアップデート、スクラップ&ビルドを進めてまいります。

■ 新規出店 (4店舗)



パワーズ Uシンフォニープラザ店
(ユニバース)



Da*マルシェ歌志内店
(道北アークス)



ユニバース城下店
(ユニバース)



Da*マルシェ剣淵店
(道北アークス)

■ 経営統合 (4店舗)



(株)みずかみ
アクティマーケットプレイス遠野店
他3店舗

■ 店舗改装 (25店舗、うち業態変更7店舗)



スーパーアークス花巻高木店
(ベルジョイス)



スーパーアークス白石店
(ラルズ)



スーパーアークス中標津店
(福原)



スーパーアークス野幌店
(ラルズ)

ご清聴ありがとうございました



ARCS GROUP

